

## 「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成29年4月

福井県知事 西川 一 誠  
安全環境部長 清 水 英 男

### 29年度の施策

#### 1 原子力・エネルギーの確かな将来展望と地域振興

##### ◇「安全最優先」の原子力行政

##### ○揺るぎない原子力・エネルギー政策の実行を国に対し要請

- ・原子力発電の重要性・必要性について、国が前面に立って県民・国民に対し丁寧に説明・説得する機会を充実することにより、国民理解をさらに深めるよう国に対し求めます。
- ・国に対し、原子力発電所の再稼働や廃炉、40年超運転延長等の状況を踏まえ、次のエネルギー基本計画の見直しにおいて、安全性を高めた新型炉への転換などエネルギーミックス達成の確固たる道筋を示すよう求めます。

### ○再稼働への堅実な対応

- ・原子力発電所の再稼働については、国による審査状況や事業者の安全対策の達成状況等を県原子力安全専門委員会において厳正に確認します。
- ・国に対し、新規制基準に基づき、科学的・技術的観点から原子力発電所の安全を遅滞なく効率的に確認するとともに、福島事故の教訓を踏まえ、現地に軸足をおいた安全規制体制の充実強化を求めます。
- ・事業者に対し、電力自由化が進展する中においても、原子力発電所の安全対策の着実な実施と組織・人員体制の充実強化を求めます。

### ○高速増殖炉「もんじゅ」への対応

- ・「もんじゅ」については、政府一体となった指導・監督を行うとともに、現地の規制体制の強化により、地元の安全・安心を確保するよう求めます。
- ・核燃料サイクルについては、国に対し、「もんじゅ」の活用を含む高速炉開発の具体的な内容を明確に示すよう求めます。

### ○40年超運転への慎重な対応

- ・40年を超える原子力発電所の運転延長については、より慎重で厳格な対応が必要であり、今後、現場における安全対策の実施状況、国や事業者の理解活動の実績などを確認し、慎重に対処します。

### ○廃炉対策

- ・電力事業者が策定した「廃止措置に係る地元企業の発展・雇用促進策」により、地元企業の参入機会を拡大するとともに、参入に必要な資格取得の支援や廃炉業務における県内企業製品の活用促進を図ります。
- ・使用済燃料の中間貯蔵施設の県外立地の早期実現について、事業者に対し、「使用済燃料対策推進計画」をできる限り前倒しで実現するよう求めるとともに、国に対し、「使用済燃料対策推進協議会」において責任をもって事業者の実行を促し、具体的な進展を図るよう求めます。
- ・国に対し、放射性廃棄物の処分場確保など廃炉の課題について、国が責任をもって廃止措置を着実に進めていく体制を整備するよう求めます。

## ○原子力防災対策の充実・強化

- ・国の地域原子力防災協議会における協議・検討を通じ、P A Z（発電所5 k m圏内）およびU P Z（発電所5～30 k m圏内）地域の防災対策を継続的に強化します。
- ・原子力防災訓練については、住民参加の広域的な総合訓練を実施するとともに、プラントの事故制圧、安定ヨウ素剤の配布、スクリーニング・除染など、引き続き個々の訓練の充実強化を図ります。さらに、市町が行う住民避難訓練への支援を行います。
- ・要配慮者等が避難の際に利用する一時集合施設等（3か所）の放射線防護対策を実施します。

## 2 日本一の安全・安心（治安充実から治安万全へ）

### ◇あらゆる災害対応を迅速第一【部局連携】

#### ○「最初動」即応の危機対策

- ・地震やゲリラ災害などに備え、災害が発生する前段階で国や市町、防災関係機関と連携し、迅速かつ的確な初動対応を行います。
- ・総合防災訓練については、近年の大規模な災害を踏まえ、地震や洪水、土砂による災害など複合災害を想定し、自衛隊、警察、消防など実動部隊と連携した実践的な訓練を南越前町において実施します。

◇「安全・安心ふくい」確立プラン【部局連携】

○犯罪・事故の未然防止を追及

- ・振り込め詐欺などの高齢消費者被害を抑止するため、消費生活教室や安全安心講習会の受講者数を増やします。また、若者が参画した高齢者被害防止キャンペーンの実施など被害未然防止対策を強化します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
消費生活教室等の受講者数 (累計)	3,211人	6,815人	9,800人	12,000人

- ・高齢者やその家族が日常的に利用するスーパーマーケット等において掲示物や店内放送による啓発を行います。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
啓発を行う店舗数 (累計)	—	104店舗	150店舗	200店舗

○子ども・女性の安全強化

- ・子どもへの声かけ事案が多く発生する時間帯に重点を置いた「夕方見守り運動」について、県民運動として展開していくことにより、地域の犯罪抑止力を高めます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
夕方見守り運動の参加者数 (累計)	—	—	1,500人	3,000人

- ・高校生自らが企画・出演する防犯啓発CMの作成や女子大学生による防犯研修会の開催などの防犯サークル活動により、女性自身の自主的な防犯知識習得を促進します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
防犯研修会等の参加者数 (累計)	—	270人	570人	920人

- ・子ども・女性の緊急時の駆け込み店舗を全県下くまなく指定していくことにより、地域における見守り体制を確立し、県内全域において子ども・女性が被害にあわない環境づくりを推進します。

### ○通学路や高齢者の安全確保

- ・商品割引等の特典を高齢免許返納者本人だけでなく、その家族に拡充し、高齢運転者の免許返納を促進します。また、ASV（先進安全自動車）の効果を周知する体験会の開催などにより、高齢運転者の交通事故を抑止します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
免許返納者数 (累計)	1,351人	3,046人	4,500人	6,000人

- ・カーナビゲーションシステムからの急ブレーキ多発地点の情報等を、県、県警察、市町、道路管理者からなる「交通安全推進連絡協議会」において共有し、道路標示の改良や重点見守りの実施等の事故防止対策を進めます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
事故防止対策 実施小学校区 数(累計)	52校区	112校区	160校区	190校区

### 3 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

#### ◇ 元気な里山里海湖【部局連携】

##### ○すべての市町に「ふるさと学びの森」

- ・ 県民の里山里海湖に触れ親しむ機会を増やすため、里山里海湖研究所において、参加者層の拡大や体験プログラムの充実など「ふるさと学びの森」30団体の利用促進策の検討を進めます。
- ・ 学校の先生や小学生などより多くの県民の参加を募り、季節の移ろいに応じた生き物の調査を進めます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
生きものの調査数	385件/年	768件/年	800件/年	1,000件/年

##### ○コウノトリを大空へ

- ・ 越前市白山で野外コウノトリの定着が進みつつあり、さらなる広がりを目指して県内各地でえさ場環境づくりの支援を進めます。
- ・ 放鳥コウノトリ（げんきくん、ゆめちゃん、たからくん、さきちゃん）の飛来先や繁殖を始めた地域の住民と県民との交流を進めます。
- ・ 無農薬農法や水田魚道等の設置など生き物の豊かな里づくりを実践する「生き物ぎょうさん里村」の認定数を増やします。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
生き物ぎょうさん里村認定数（累計）	43地域・団体	47地域・団体	49地域・団体	50地域・団体

## ○福井の宝「世界の年縞」

- ・学術的に高い評価を受ける水月湖年縞を観光にも積極的に活用する年縞研究展示施設について、建築や展示、外構工事を進めます。

### 交流拡大施策

- ・年縞研究展示施設の開館に当たり、県民の機運を高めるため、9月に年縞に関する国際シンポジウムを開催するほか、中高生を対象とした立命館大学によるサマースクールを7月に開催します。交流拡大施策
- ・立命館大学と年縞中の花粉を分析し年代測定の精度向上や過去の気候変動を解明する共同研究を推進するとともに、年縞研究展示施設の開館に向けて年縞研究の国際ネットワークづくりを進めます。

## ◇低炭素のまちづくり推進

### ○温室効果ガスの排出抑制

- ・地球温暖化対策や自然環境の保全、循環型社会づくり、環境教育などをさらに推進するため、新たな環境基本計画（H30～H34）を策定します。
- ・「1市町1エネおこし」の先進事例を周知するとともに、ダムなどの既存施設を有効活用した小水力発電や、木質バイオマス熱、雪氷熱利用による地域産業の振興につながる取組みを支援することにより、市町への再生可能エネルギーの導入を進めます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
「1市町1エネおこし」による再生可能エネルギー導入市町数 (累計)	7市町	10市町	12市町	17市町

◇まちをきれいにモノを大切に

○国体に向けクリーンアップの総作戦

- ・国体に向け、「スポーツG O M I 拾い大会」の予選会の開催や、「クリーンアップふくい大作戦」参加企業等へのスマートフォンアプリ「ピリカ」の利用の呼びかけなど、環境美化活動を県民運動として展開します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
「ピリカ」を使ったゴミ拾い参加者数(累計)	25,405人	55,351人	85,000人	100,000人

- ・ごみのない海岸線を維持するため、沿岸11市町において、住民や漁協の協力を得て、海岸漂着物や漂着のおそれのある漂流・海底ごみの回収・処分を実施します。

○ごみ減量化の徹底

- ・モデル地域でのP T Aによる雑がみ分別回収の競い合いや、回収拠点の増加および小規模事業所の分別回収促進により、雑がみの分別回収を強化し、リサイクル率の向上を図ります。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
リサイクル率 (一般廃棄物)	16.1%	17.2%	18.0%	18.6%

- ・食品ロス実態調査に基づく市町ごとの特性に応じた食べきりアクションプランを作成するほか、国と共働でガイドラインを策定し、持ち帰り文化の醸成を図り、「おいしいふくい食べきり運動」の認知度を高めます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
おいしいふくい食べきり運動の認知度	66%	71%	76%	80%

- ・古本市（年間約 3,000 冊販売）やおもちゃ病院（年間約 1,000 件修理）等を人が集まる中心市街地で開催するほか、子育て用品リユース市の実施や、これらの活動を行う団体の育成により、県民のリユース意識を高めます。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
古本市やおもちゃ病院を行う団体の育成(累計)	8 団体	10 団体	11 団体	12 団体

#### ◇景観を県民資産に

##### ○「わがまち景観」の保全・継承

- ・「ふくいふるさとの音風景」について、ラジオ等で音風景の投稿数を増やすとともに、県民が地域の宝として未来に残していきたいと願っているふるさとの音を「ふくいの音風景50選」として選定し、ホームページにより広く発信します。

目標名	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (目標)	30年度 (目標)
音風景の投稿数 (累計)	131 件	221 件	310 件	400 件